

Ⅱ 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

1 豊かな自然環境でのびのび鳥取らしく生きる

問6 鳥取県の施策等について、あなたの満足度をお聞きしますので、それぞれ5段階で評価をお願いします。(1～5のいずれかの数字に○をしてください。)

※「5」は満足、「1」は不満

問6-1 「豊かな自然環境でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度

～「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」の満足度がトップ、「農業の活力増進に関する取組」は前年度比 17.3 ポイントアップ～

「豊かな自然環境でのびのび鳥取らしく生きる」ための取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が 34.6%と最も割合が高く、次いで「農業の活力増進に関する取組」が 33.4%、「スポーツによる交流促進を進める取組」「海洋・森林等の環境保全と利活用の推進」が 21.5%と続いている。

平成 28 年度-令和2年度を比較してみると、満足度は全ての年度で「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が3割台で推移している。また、前年度(元年度)との比較では、「農業の活力増進に関する取組」「スポーツによる交流促進を進める取組」「農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組」の「満足・やや満足」と回答した割合が特に増加している。また、全体的に「不満・やや不満」と回答した割合は減少傾向にある。

一方、「外国人観光客が憧れる・訪れる観光地づくり」の満足度は前年度と比較し 7.5 ポイント減少している。

図13 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度(n=1,642)

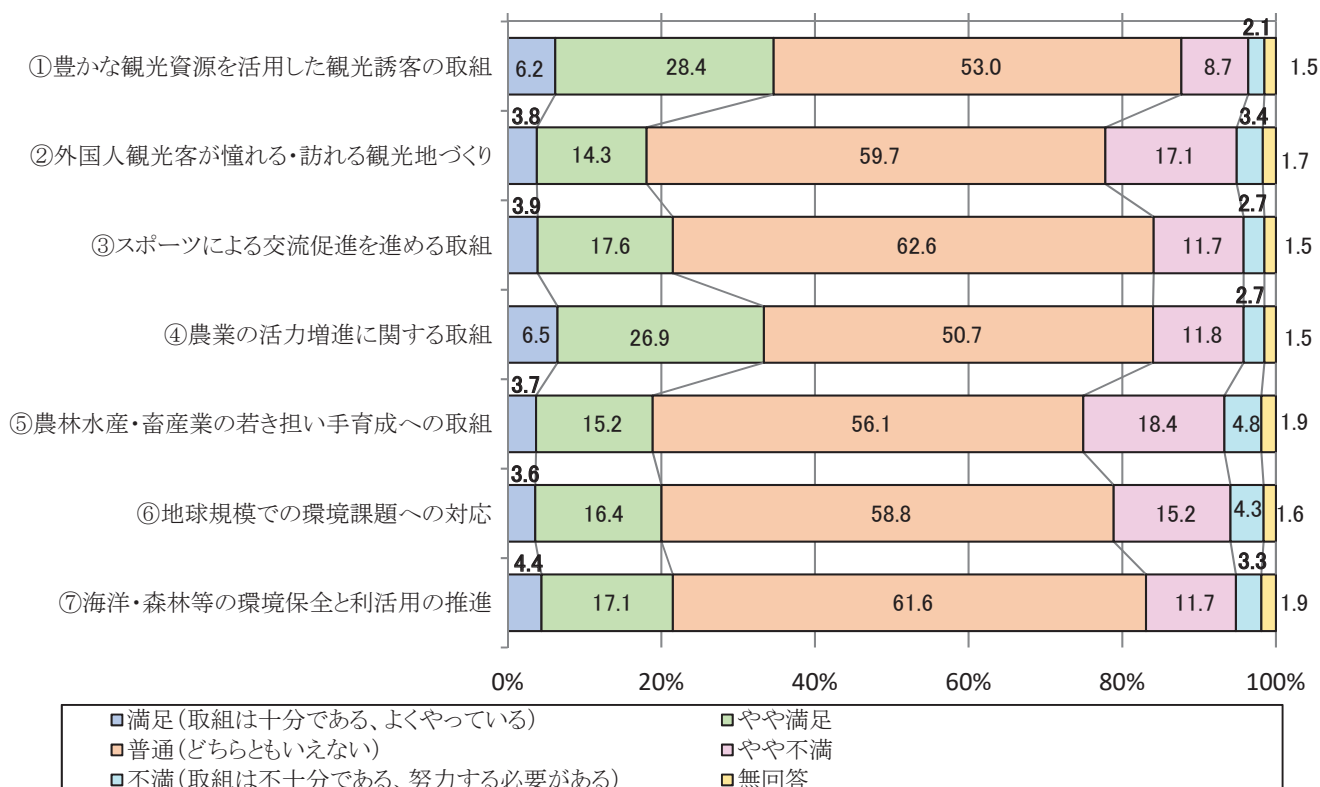
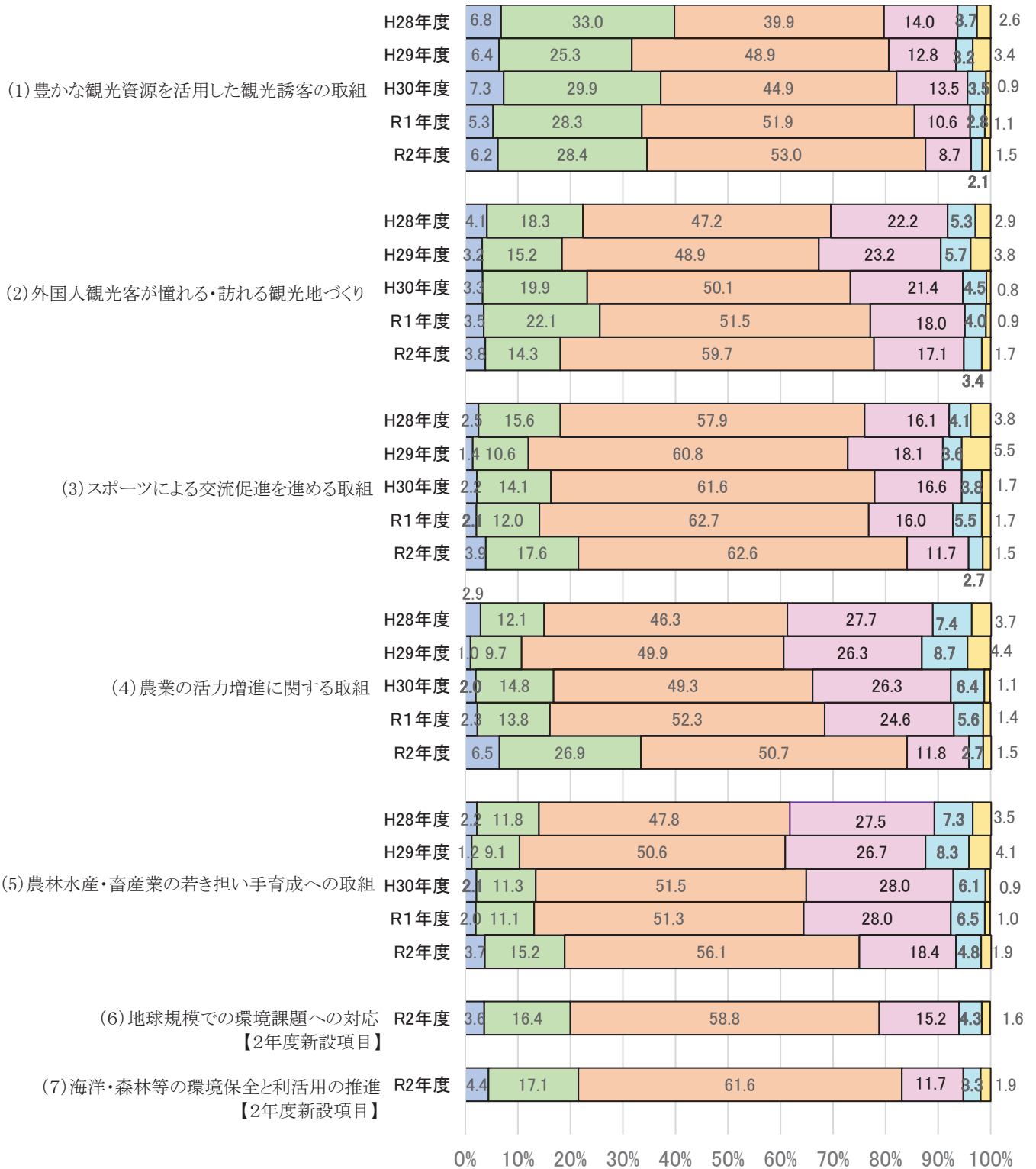


図14 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の満足度



満足 (取組は十分である、よくやっている)
 やや満足
 普通 (どちらともいえない)
 やや不満
 不満 (取組は不十分である、努力する必要がある)
 無回答

●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

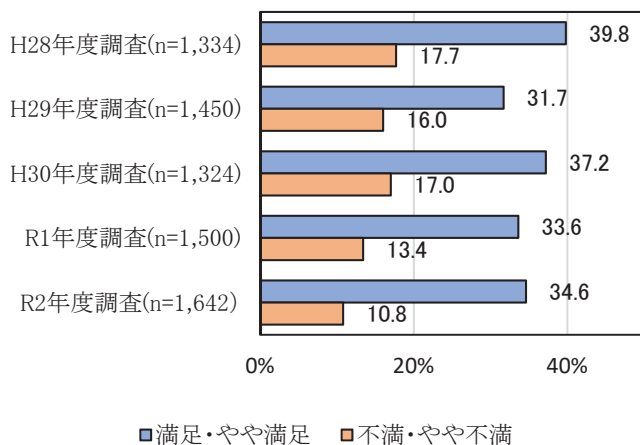
- (4) 農業の活力増進に関する取組 【+17.3】
- (3) スポーツによる交流促進を進める取組 【+7.4】
- (5) 農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組 【+5.8】
- (1) 豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組 【+1.0】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

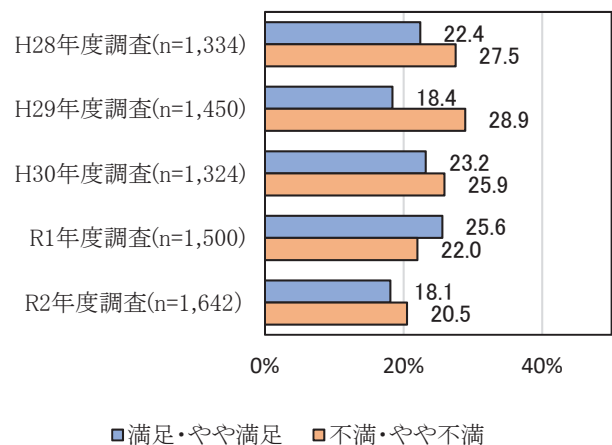
該当なし

●満足度・不満足度の比較(H28年度～R2年度までのデータが揃っている項目を掲載)

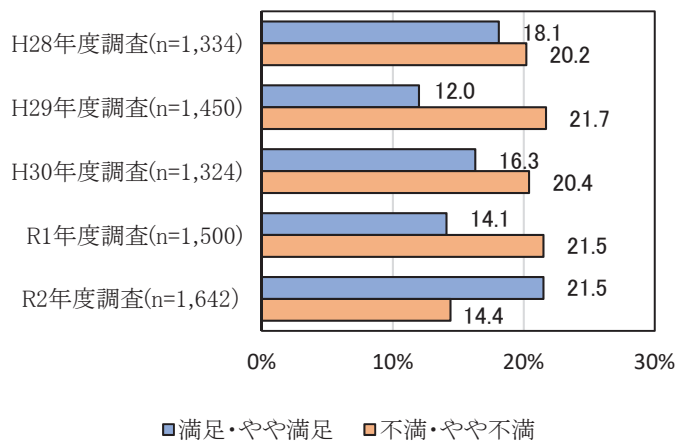
(1) 豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組



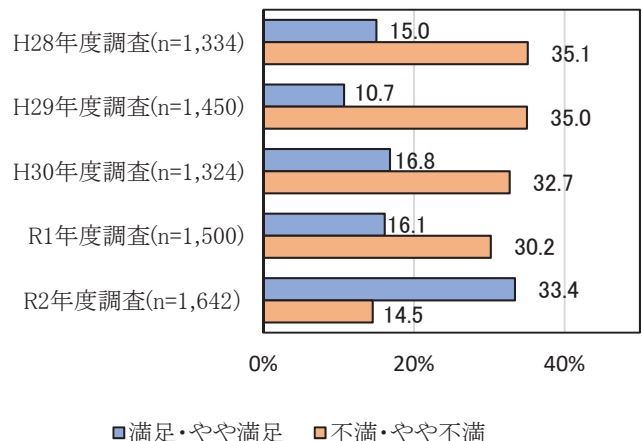
(2) 外国人観光客が憧れる・訪れる観光地づくり



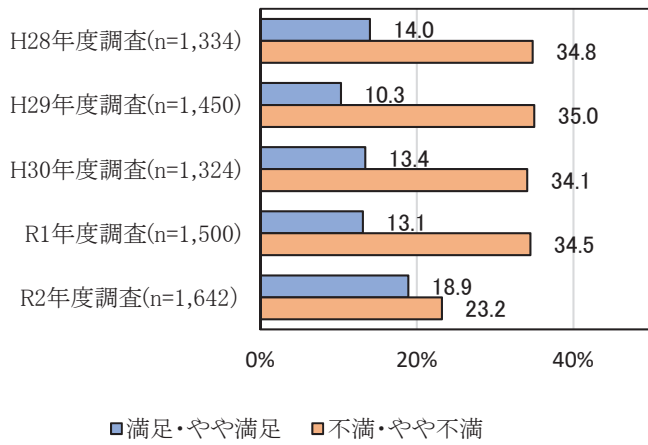
(3) スポーツによる交流促進を進める取組



(4) 農業の活力増進に関する取組



(5) 農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組



問6-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の施策等のうち、あなたが今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～農林水産・畜産業の振興や観光資源を活用した誘客の取組が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組」が53.9%と最も高く、次いで「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が52.7%、「農業の活力増進に関する取組」が52.0%と続いている。

平成28年度-令和2年度を比較してみると、「農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組」は毎年増加している。また、前年度(元年度)との比較では、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が20.0ポイント、「農業の活力増進に関する取組」が9.8ポイント増加している。

図15 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度

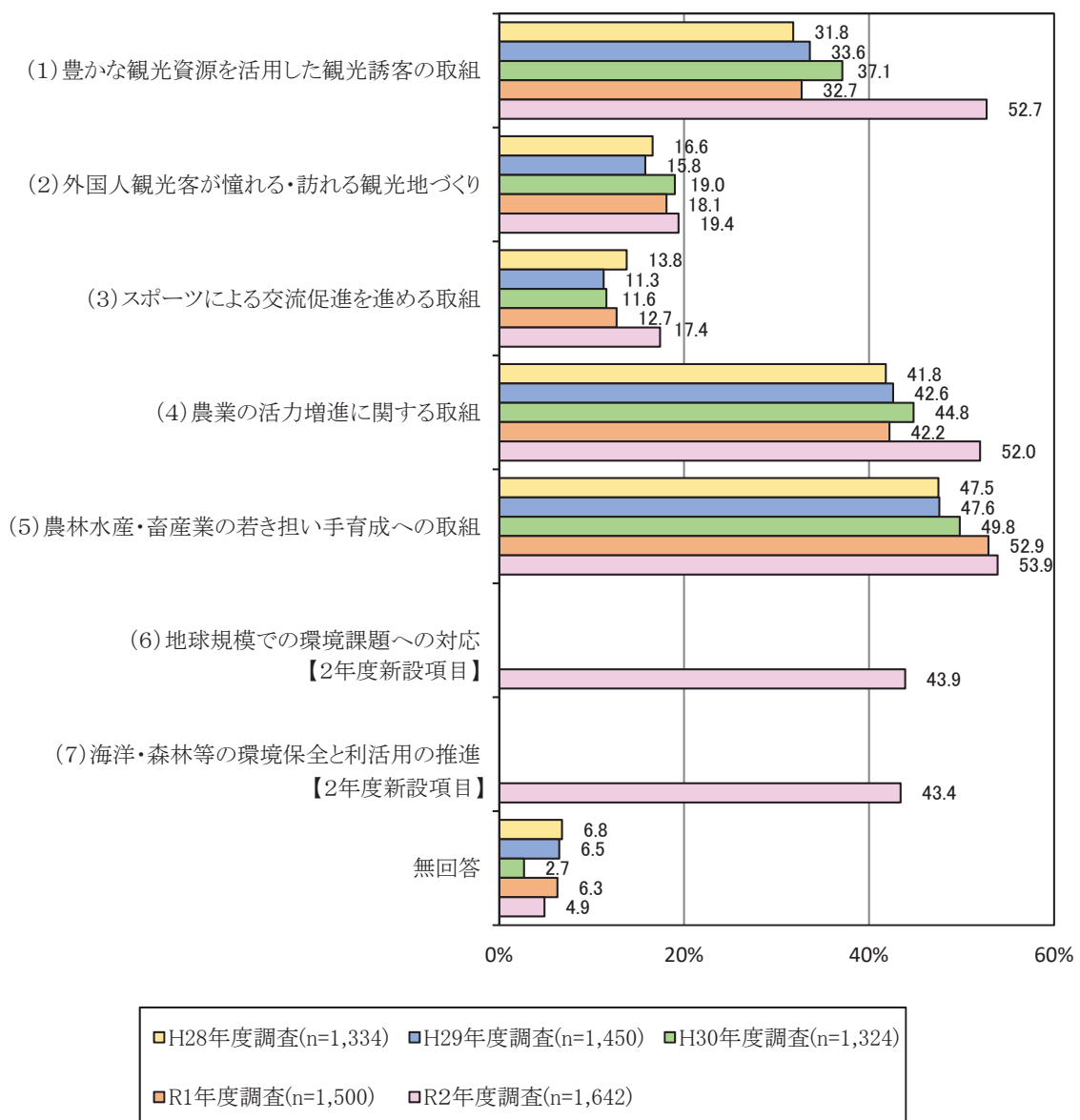
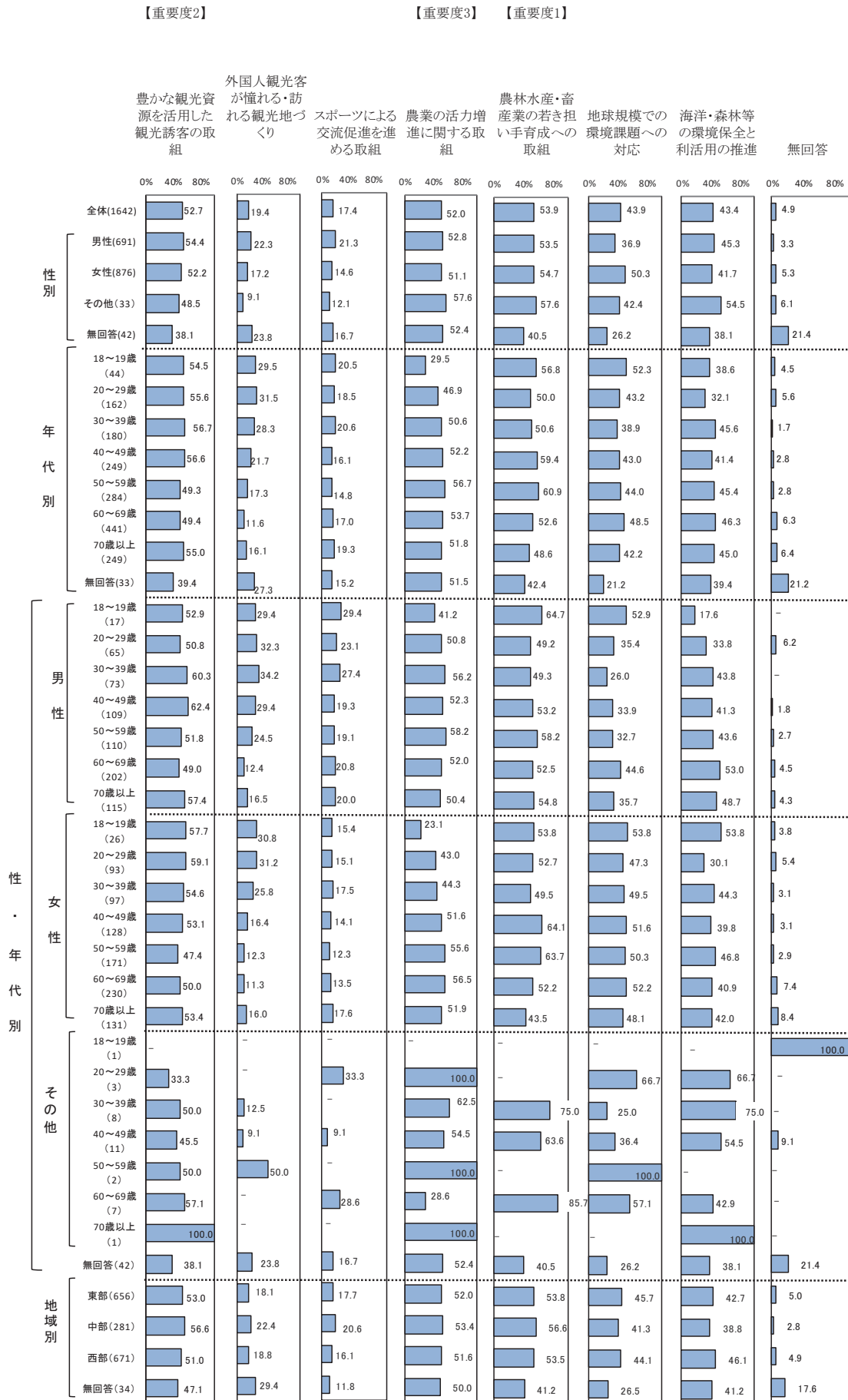


図16 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる(今後優先すべき項目)



2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

問6-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度

～健康寿命の延伸や結婚・出産・子育ての希望を叶える取組の満足度がトップ～

「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」ための取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「健康寿命の延伸」が 26.2%と最も割合が高く、次いで「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」が 26.1%、「地域で子育て世代を支える取組」が 22.5%となっている。

平成 28 年度-令和2年度を比較してみると、「地域で子育て世代を支える取組」の満足度は増加傾向にある。「絆を活かした中山間地域・まちなか振興に関する取組」の満足度は前年度と比較して 4.6 ポイント増加し、不満(不満・やや不満足)は 16.0 ポイント減少している。

一方、「地域を支える人財育成の取組」の満足度は、前年度と比較して 7.1 ポイント減少している。

図17 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度(n=1,642)

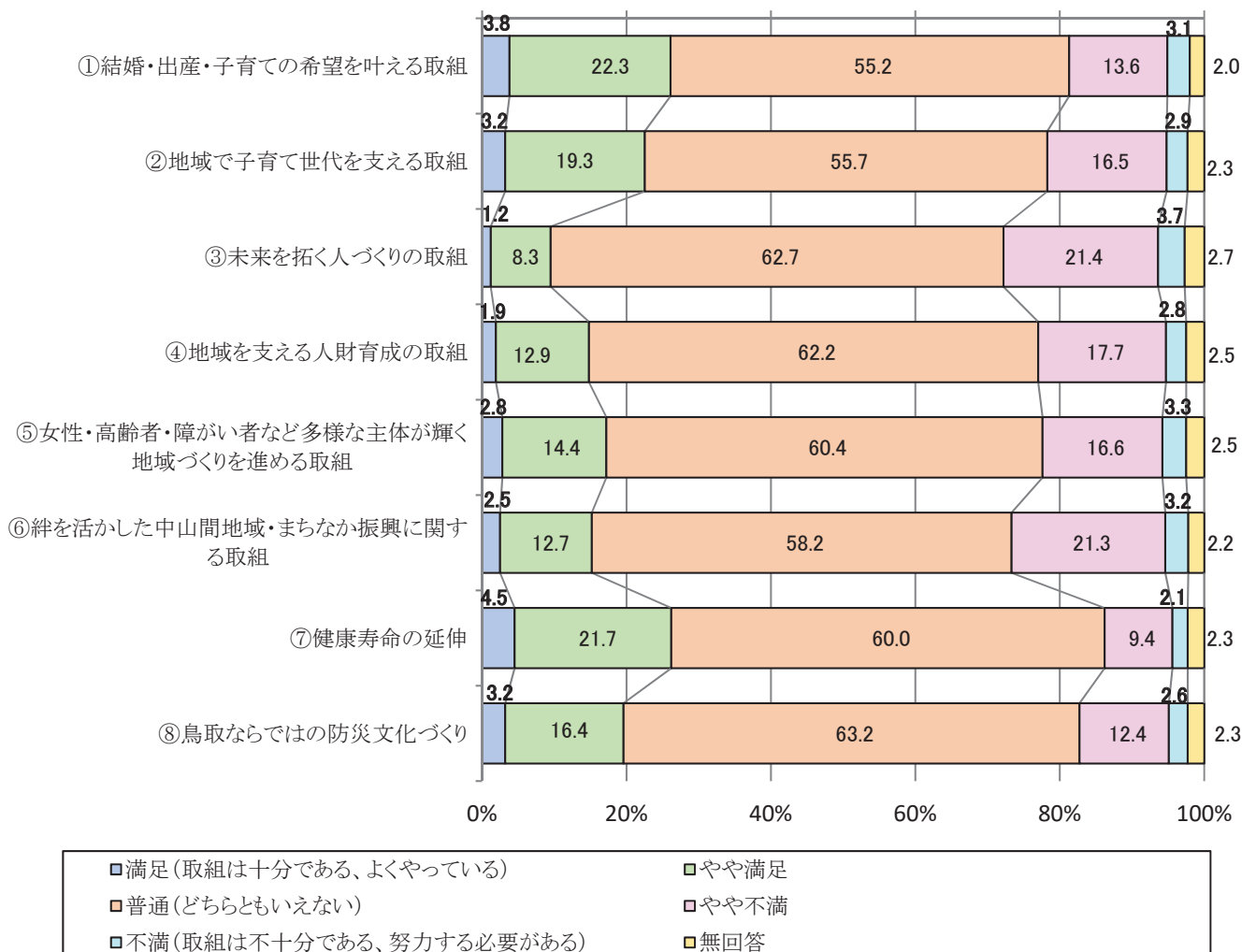
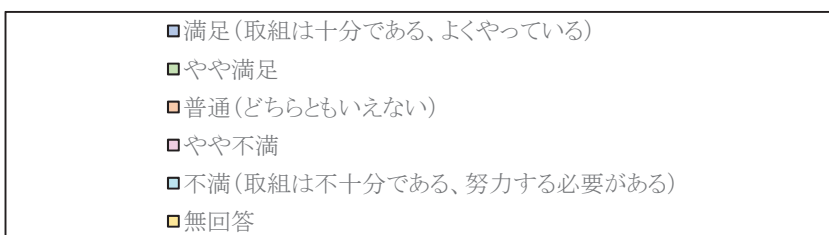
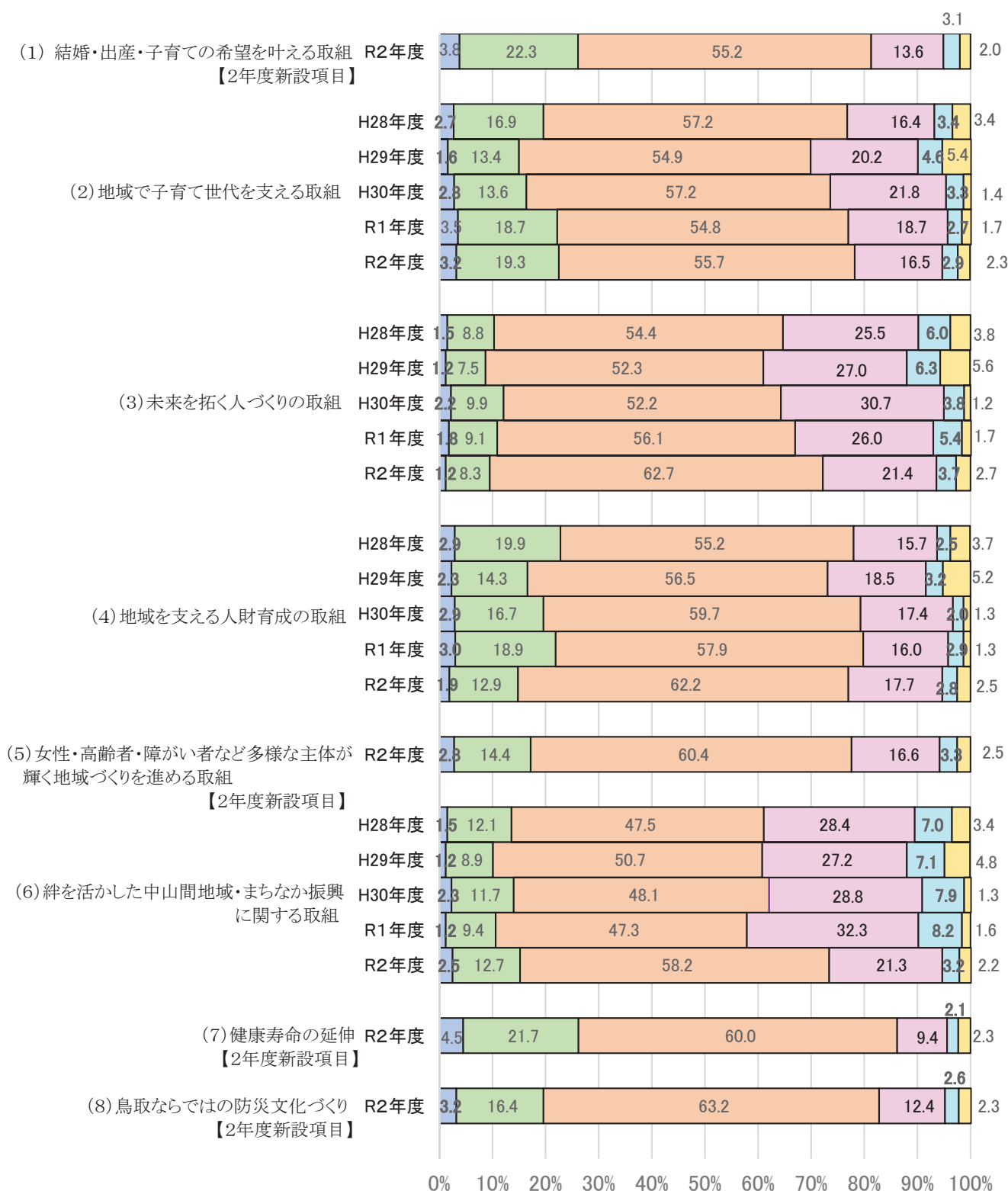


図18 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の満足度



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

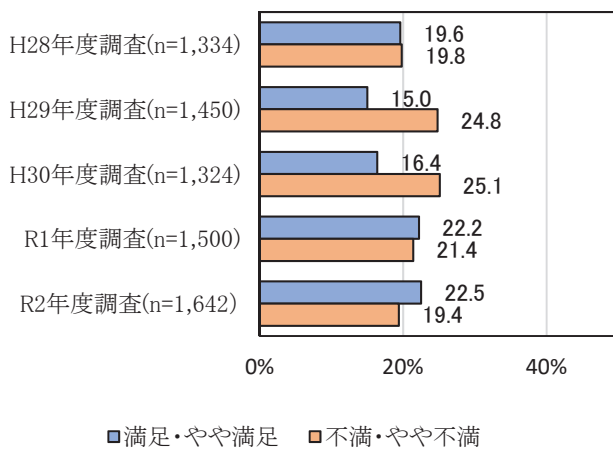
- (6) 絆を活かした中山間地域・まちなか振興に関する取組 【+4.6】
- (2) 地域で子育て世代を支える取組 【+0.3】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

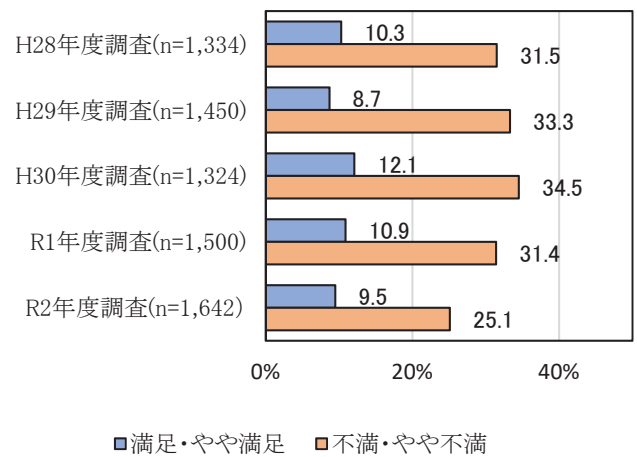
- (2) 地域を支える人財育成の取組 【+1.6】

●満足度・不満足度の比較(H28年度～R2年度までのデータが揃っている項目を掲載)

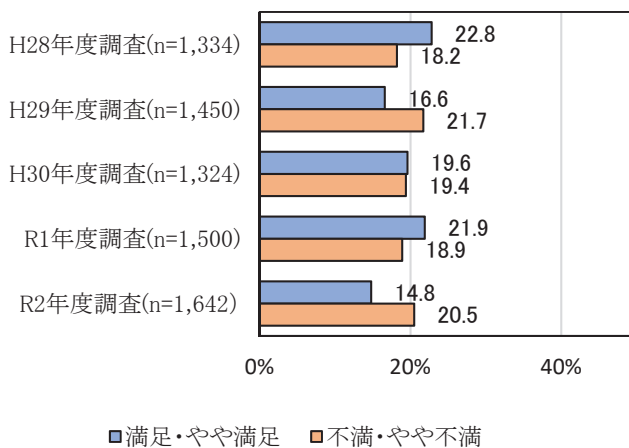
(2) 地域で子育て世代を支える取組



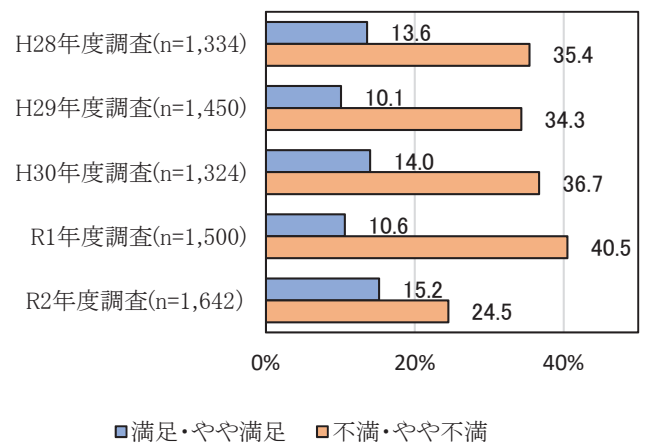
(3) 未来を拓く人づくりの取組



(4) 地域を支える人財育成の取組



(6) 絆を活かした中山間地域・まちなか振興に関する取組



問6-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の施策のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「地域で子育て世代を支える取組」「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「地域で子育て世代を支える取組」が49.6%と最も割合が高く、次いで「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」が46.4%、「女性・高齢者・障がい者など多様な主体が輝く地域づくりを進める取組」が36.7%となっている。

前年度(元年度)と比較してみると、「地域で子育て世代を支える取組」が21.3ポイント、「地域を支える人財育成の取組」が10.0ポイント増加している。

性・年代別でみると、「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」の割合は男性の20～30歳代で高く、「地域で子育て世代を支える取組」は女性の20～40歳代で高くなっている。

図19 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度

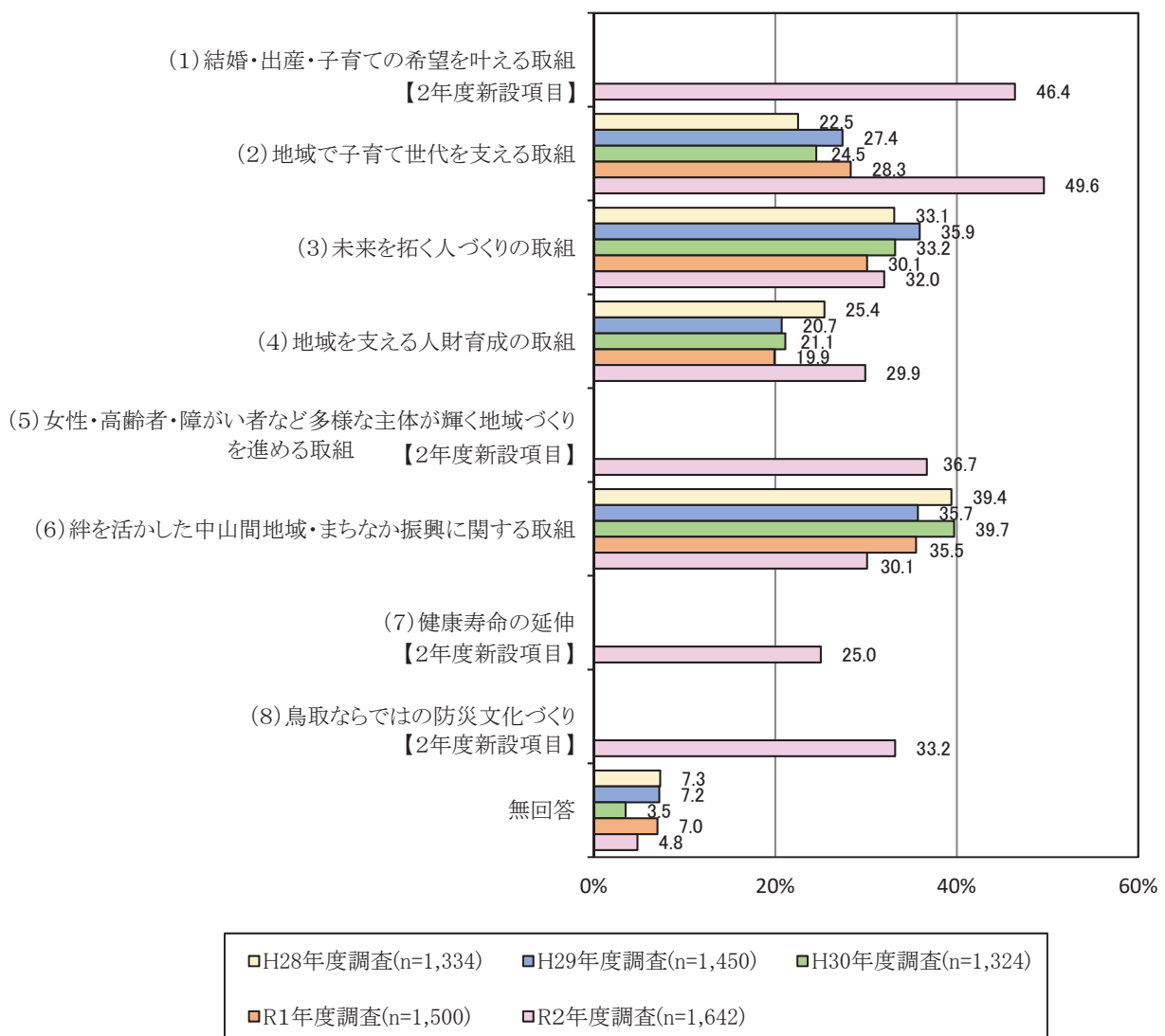
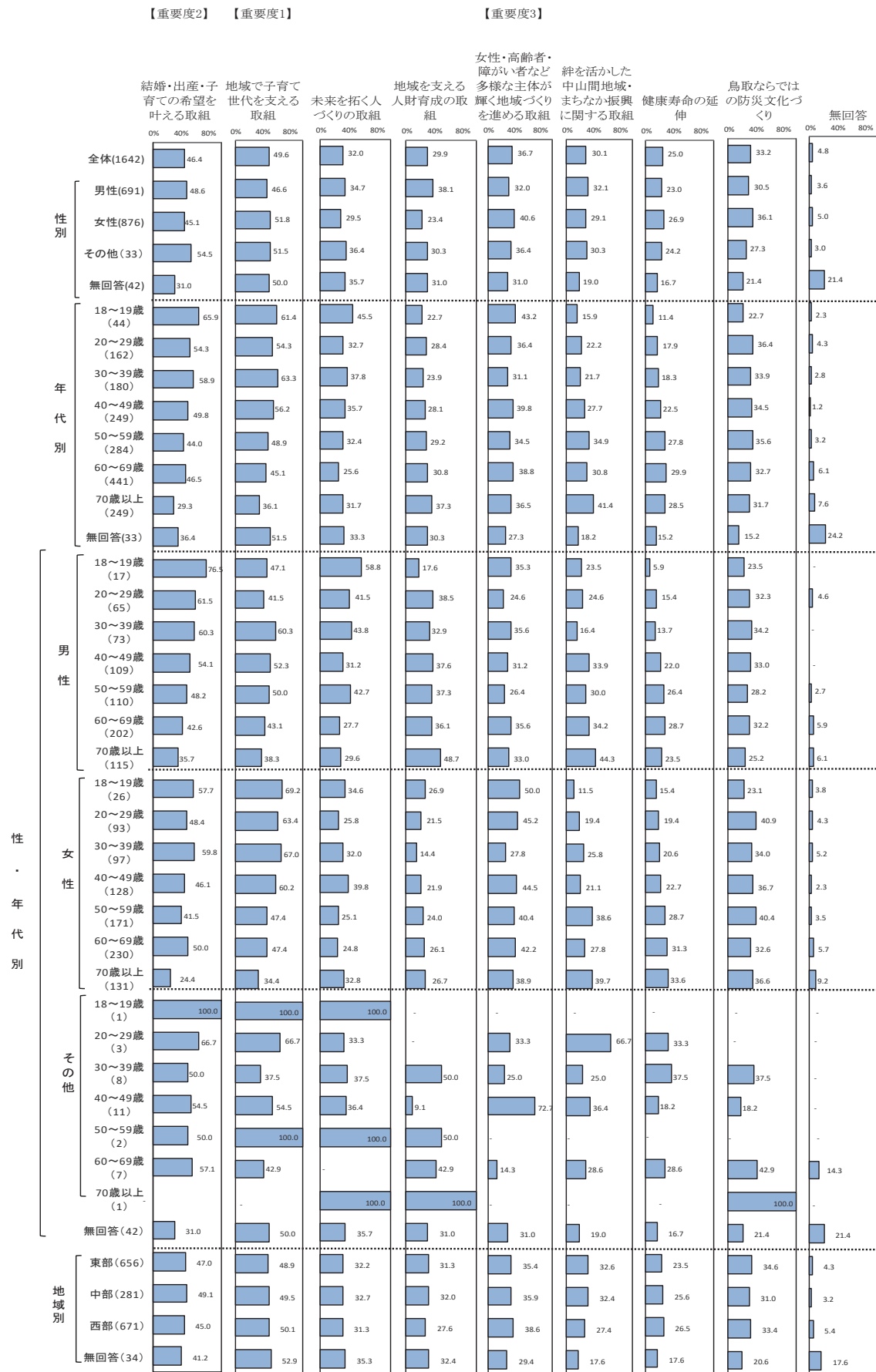


図 20 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む(今後優先すべき項目)



3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

問6-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度

～移住定住の取組やアート・文化、防災基盤構築の取組が上位～

「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」ための取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」が29.2%と最も割合が高く、次いで「アート・文化による地域づくりへの取組」が26.4%、「強靱な防災基盤の構築に向けた取組」が19.4%となっている。

平成28年度-令和2年度を比較してみると、満足度は「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」「アート・文化による地域づくりへの取組」が29年度以降、年々増加している。

また、前年度(元年度)との比較では、満足度は「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」が13.4ポイント、「アート・文化による地域づくりへの取組」が11.8ポイント増加している。不満足度(不満・やや不満の計)は、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が19.7ポイント、「自らの能力を發揮できる働き方の実現をめざす取組」が14.4ポイントと大きく減少している。

図21 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度(n=1,642)

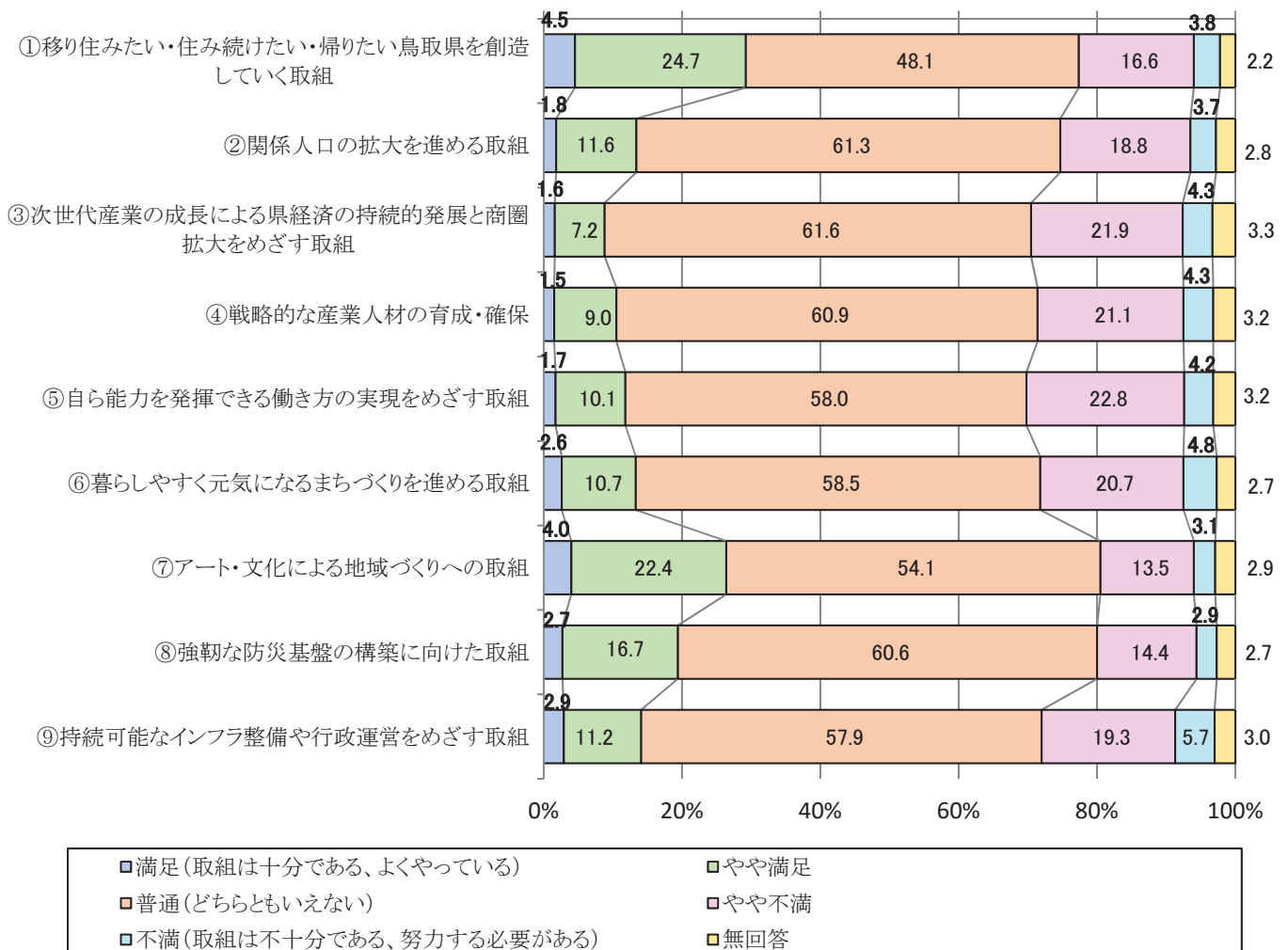
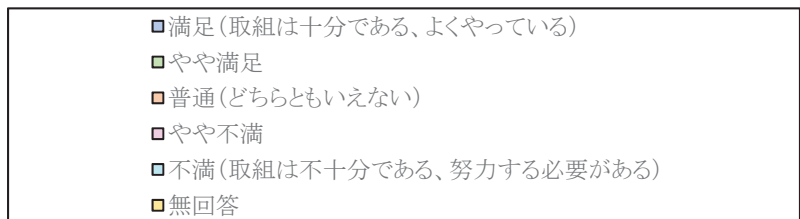
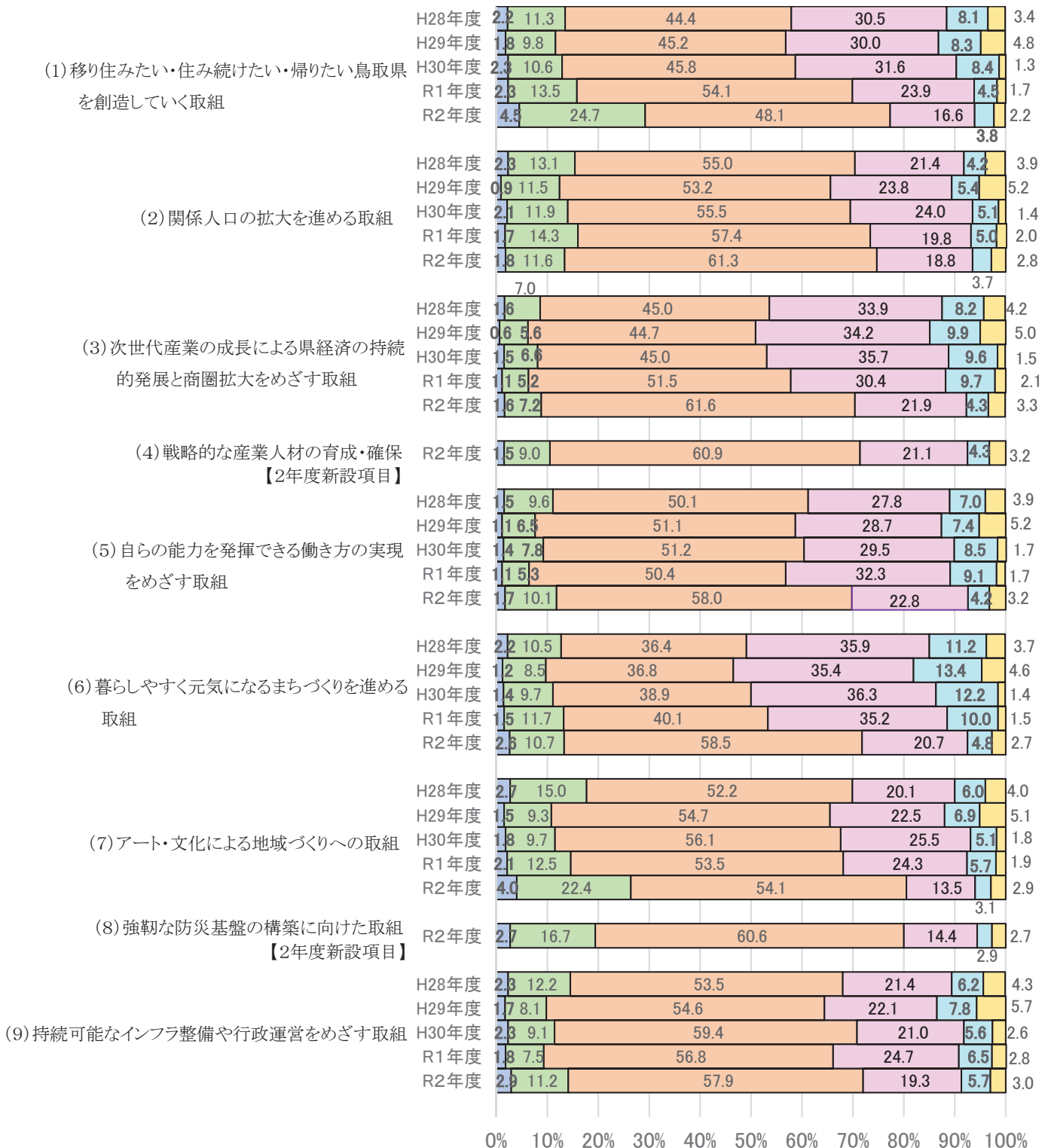


図22 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」満足度



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

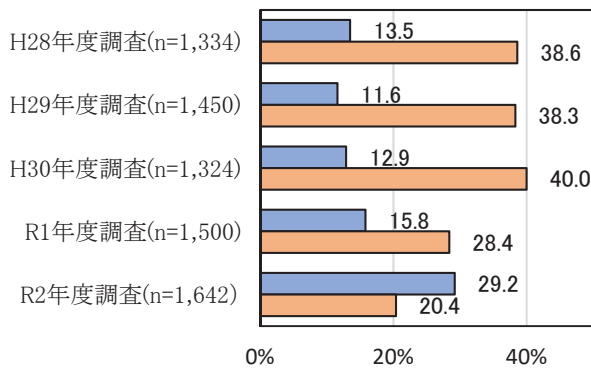
- (1) 移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組 【+13.4】
- (7) アート・文化による地域づくりへの取組 【+11.8】
- (5) 自らの能力を發揮できる働き方の実現をめざす取組 【+5.4】
- (9) 持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組 【+4.8】
- (3) 次世代産業の成長による県経済の持続的発展と商圈拡大をめざす取組 【+2.5】
- (6) 暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組 【+0.1】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

該当なし

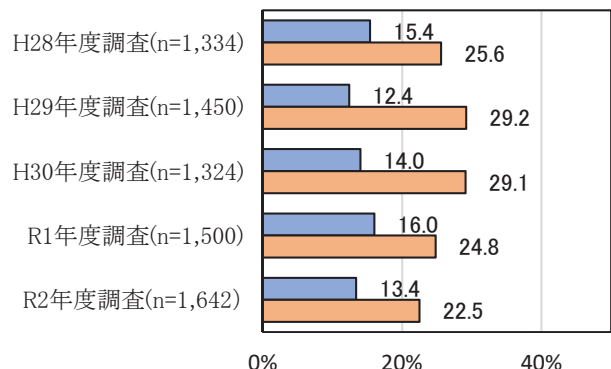
●満足度・不満足度の比較 (H28年度～R2年度までのデータが揃っている項目を掲載)

(1) 移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組



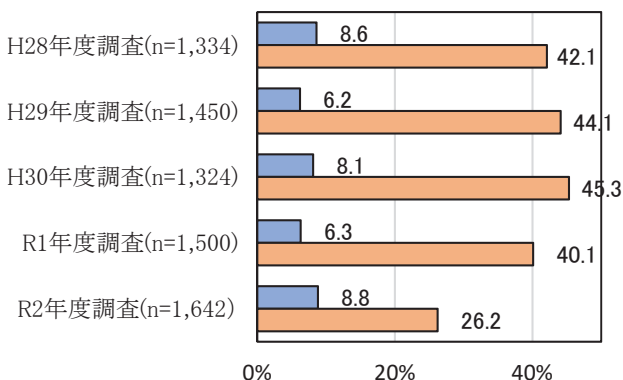
■満足・やや満足 ■不満・やや不満

(2) 関係人口の拡大を進める取組



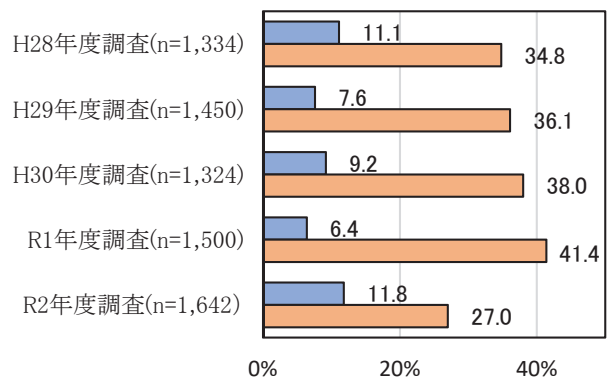
■満足・やや満足 ■不満・やや不満

(3) 次世代産業の成長による県経済の持続的発展と商圈拡大をめざす取組



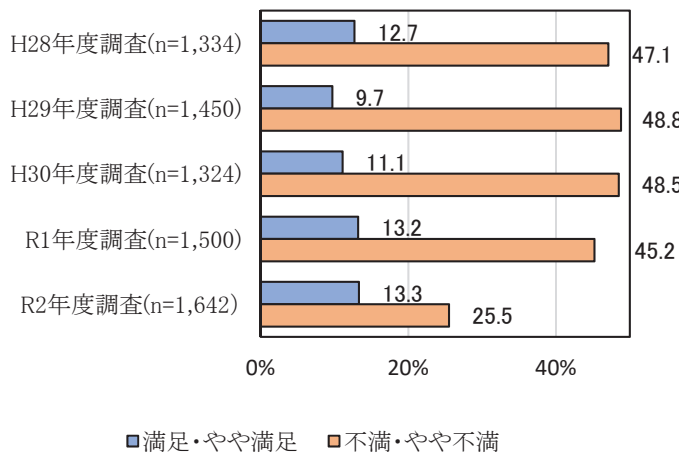
■満足・やや満足 ■不満・やや不満

(5) 自らの能力を發揮できる働き方の実現をめざす取組

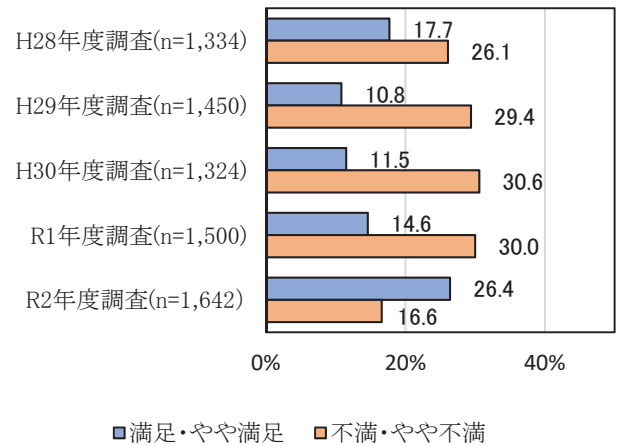


■満足・やや満足 ■不満・やや不満

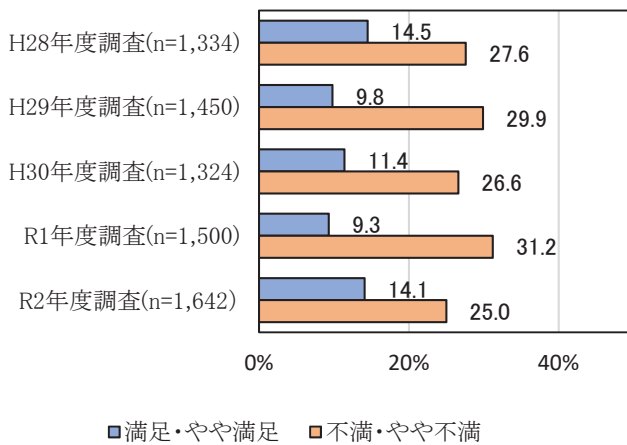
(6) 暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組



(7) アート・文化による地域づくりへの取組



(9) 持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組



問 6-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」の施策等のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

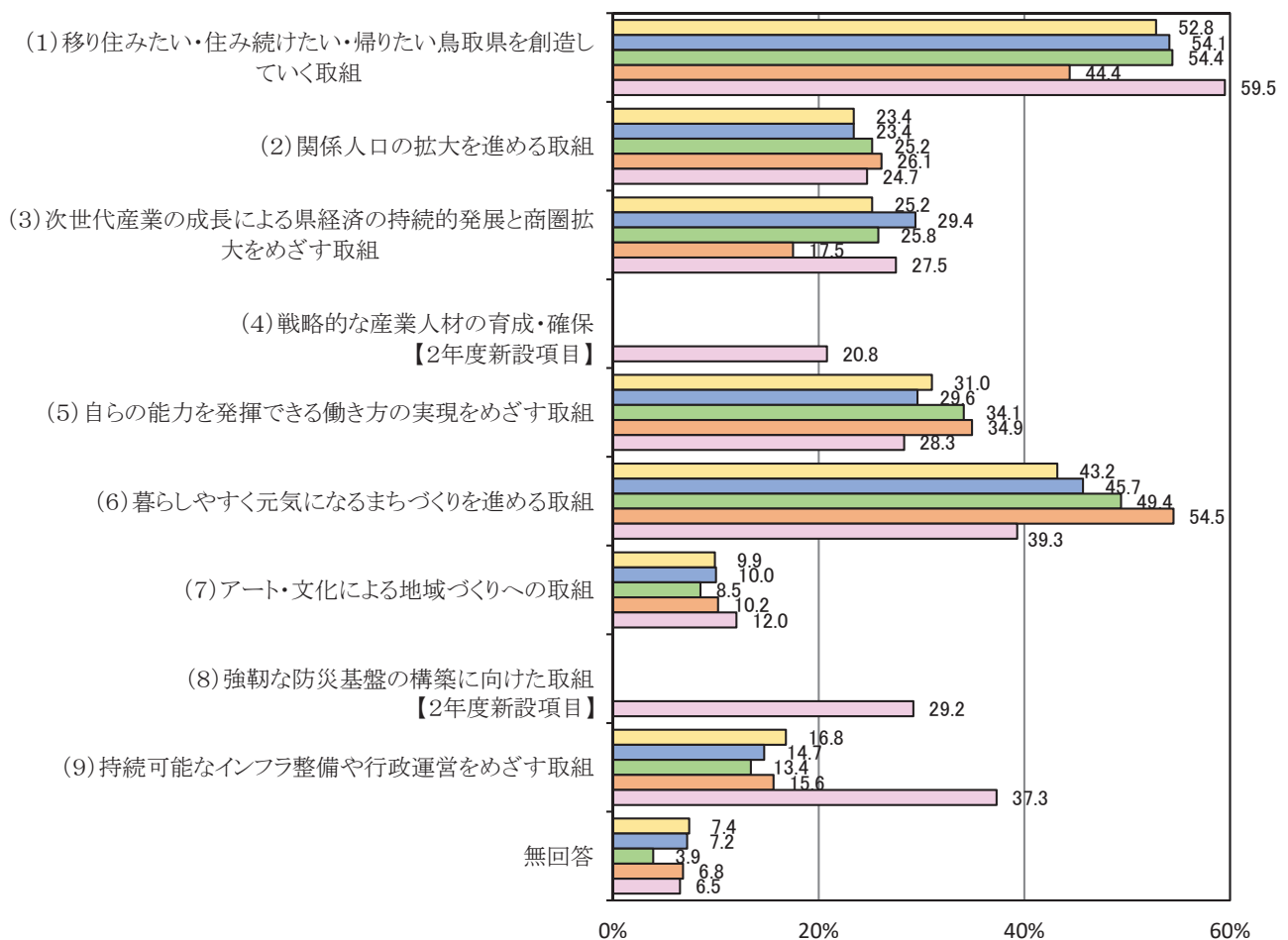
～「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」「持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」が59.5%と最も割合が高く、次いで「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が39.3%、「持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組」が37.3%となっている。

平成 28 年度-令和2年度を比較してみると、「持続可能なインフラ整備や行政運営をめざす取組」は元年度まで1割台で推移しているが、2年度はこれまでの2倍以上と大幅に増加している。

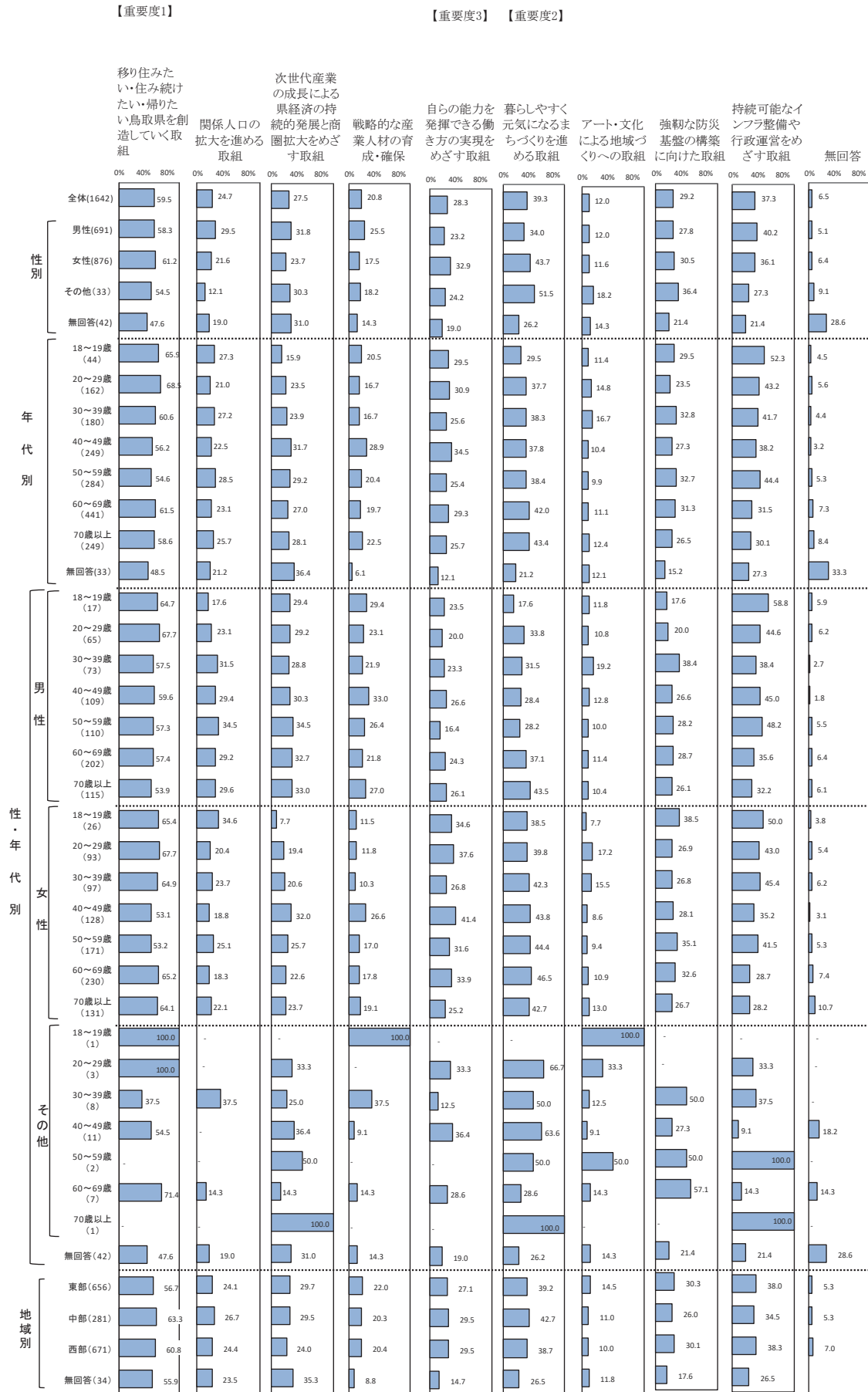
性・年代別でみると、「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」の割合は男性の20歳代、女性の20～30歳代と60歳代以上で高くなっている。「自らの能力を發揮できる働き方の実現をめざす取組」は女性の40歳代で高く、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」は70歳代を除く全ての年代で男性より女性の割合が高くなっている。

図23 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度



■ H28年度調査(n=1,334) ■ H29年度調査(n=1,450) ■ H30年度調査(n=1,324)
■ R1年度調査(n=1,500) ■ R2年度調査(n=1,642)

図 24 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ(今後優先すべき項目)



4 男女共同参画社会づくり

問7 あなたは、次の言葉をご存知ですか。それぞれひとつずつに○をしてください。

～「知っている」割合は「ワーク・ライフ・バランス」が約3割、「男女共同参画社会」が約5割～

ワーク・ライフ・バランスについて「知っている」が33.6%、一方、「知らない」が32.3%となっている。男女共同参画社会については、「知っている」が52.1%、「知らない」が10.7%となっている。

平成29年度-令和2年度を比較してみると、「ワーク・ライフ・バランス」、「男女共同参画社会」ともに「知っている」は前年度(元年度)まで年度毎に増加傾向にあるが、2年度は減少している。

年代別でみると、「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている」は30歳代が高く、「男女共同参画社会」を「知っている」は20～30歳代と50歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている」は女性の20～30歳代、「男女共同参画社会」を「知っている」は女性の20歳代と50歳代で高くなっている。

図25 あなたは次の言葉をご存知ですか (n=1,642)

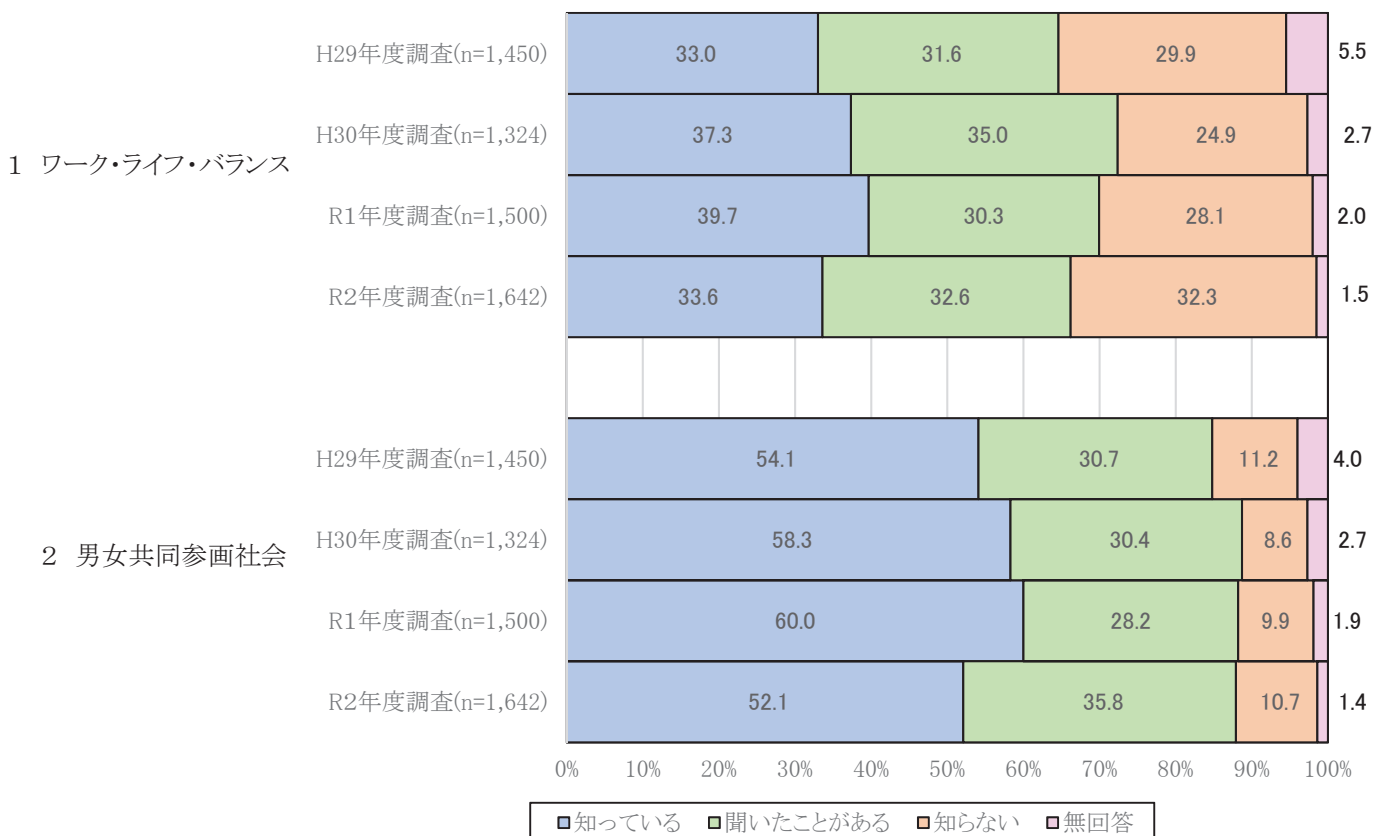
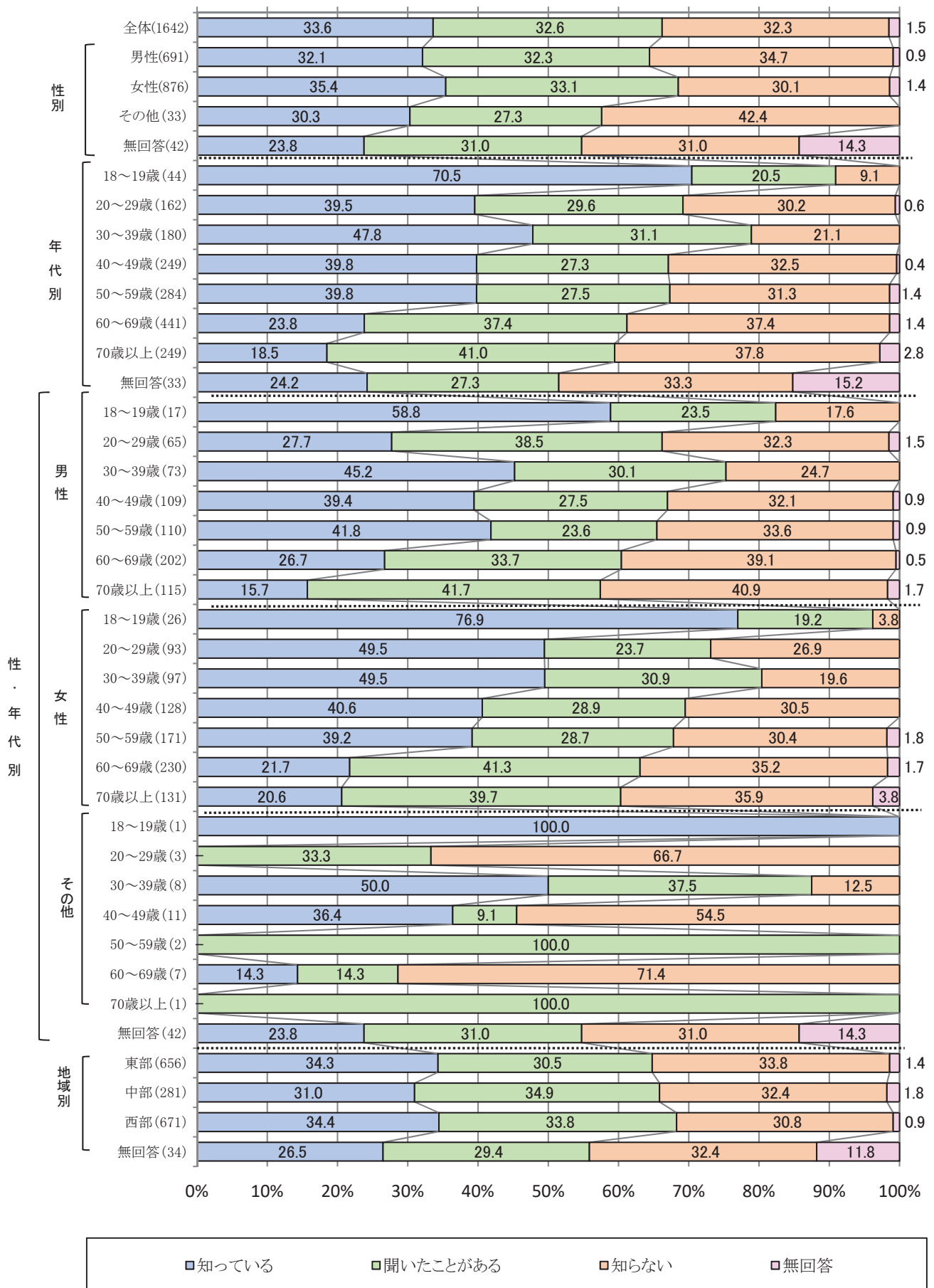


図26 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っているか



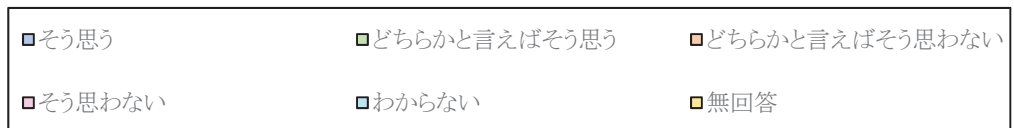
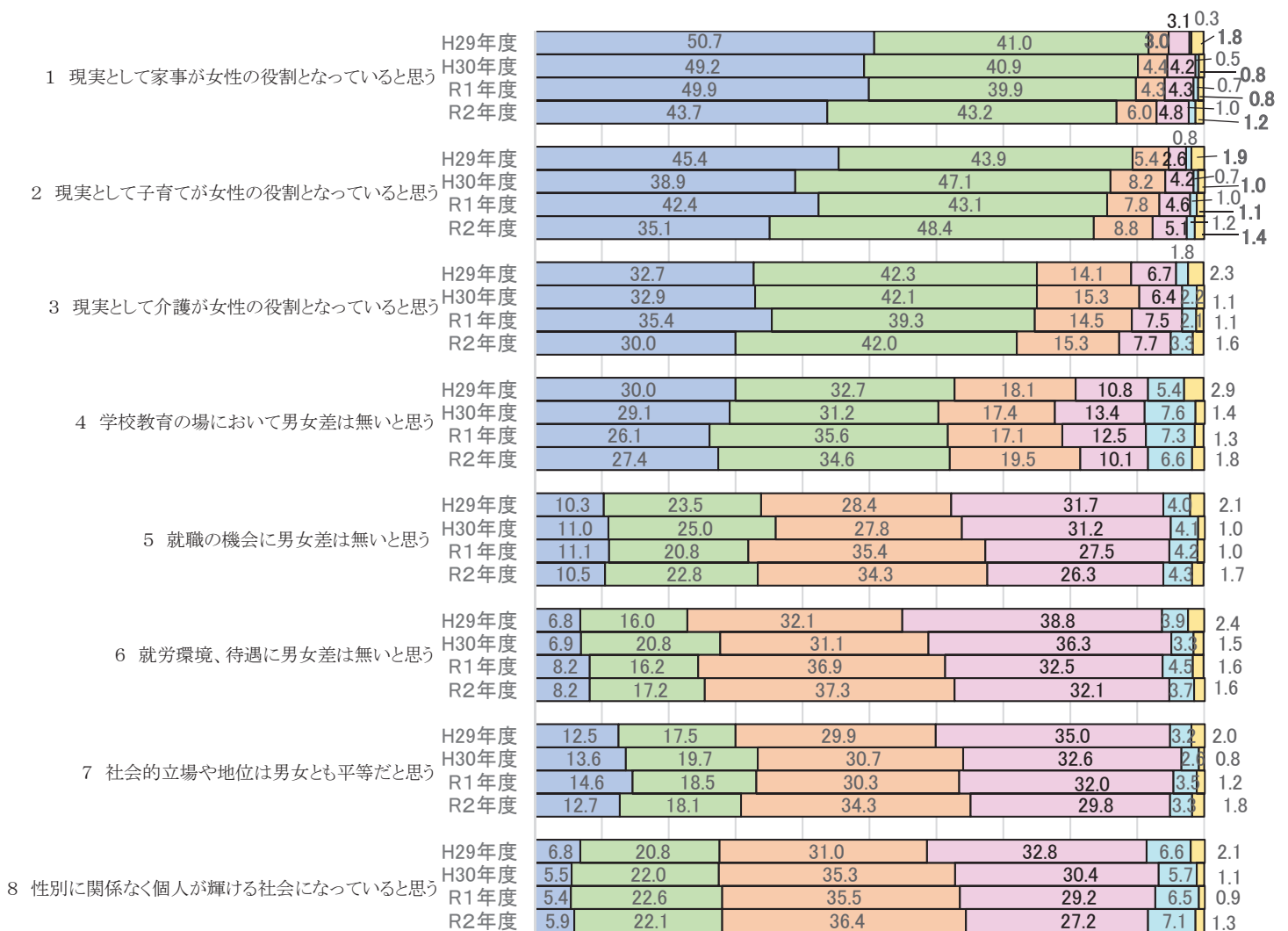
問8 男女に関する役割などについてお聞きします。次の項目(設問)についてどう思われますか、項目ごとに表中のいずれかに○を記入してください。

～現実として「家事、子育て、介護が女性の役割」となっていると思う人が多数～

男女に関する役割などについて、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせるとは、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」が86.9%と最も割合が高く、次いで「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が83.5%、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」が72.0%となっている。

また、平成29年度-令和2年度を比較してみると、「現実として家事が女性の役割となっている」、「現実として子育てが女性の役割となっている」、「現実として介護が女性の役割となっている」は、「そう思う」の割合が年度毎に減少している。

図28 男女に関する役割(n=1,642)



問9 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策
(〇は3つまで)

～「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」
「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」が上位～

男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が66.3%と最も割合が高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」が53.3%、「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」が50.3%となっている。

前年度(令和元年度)と比較してみると、「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」の割合が4.8ポイントと特に増加している。

年代別でみると、「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は20～40歳代で割合が高くなっている。

性・年代別でみると、「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」は男性の20歳代と50歳代、女性の20～40歳代で割合が高く、「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は女性の20～30歳代で割合が高くなっている。

図29 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思いますか(n=1,642)

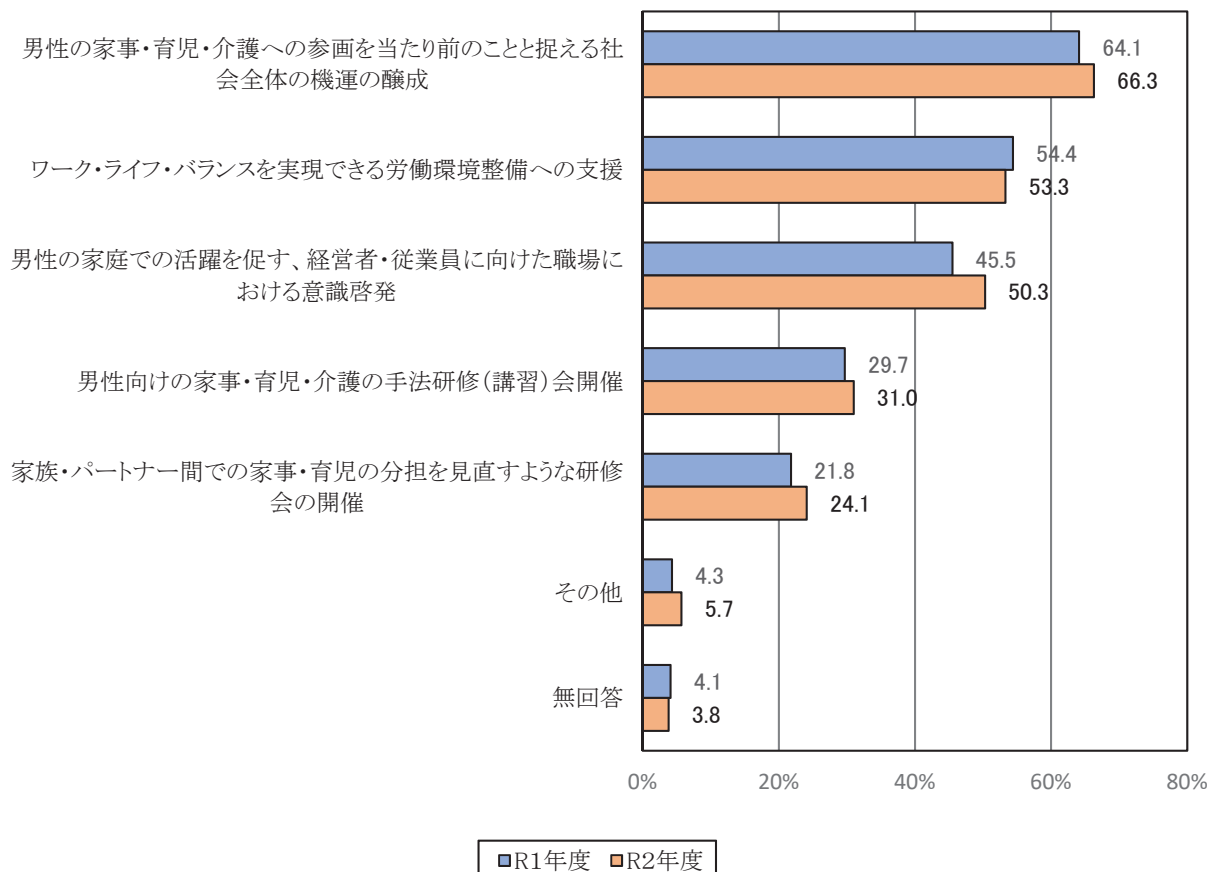
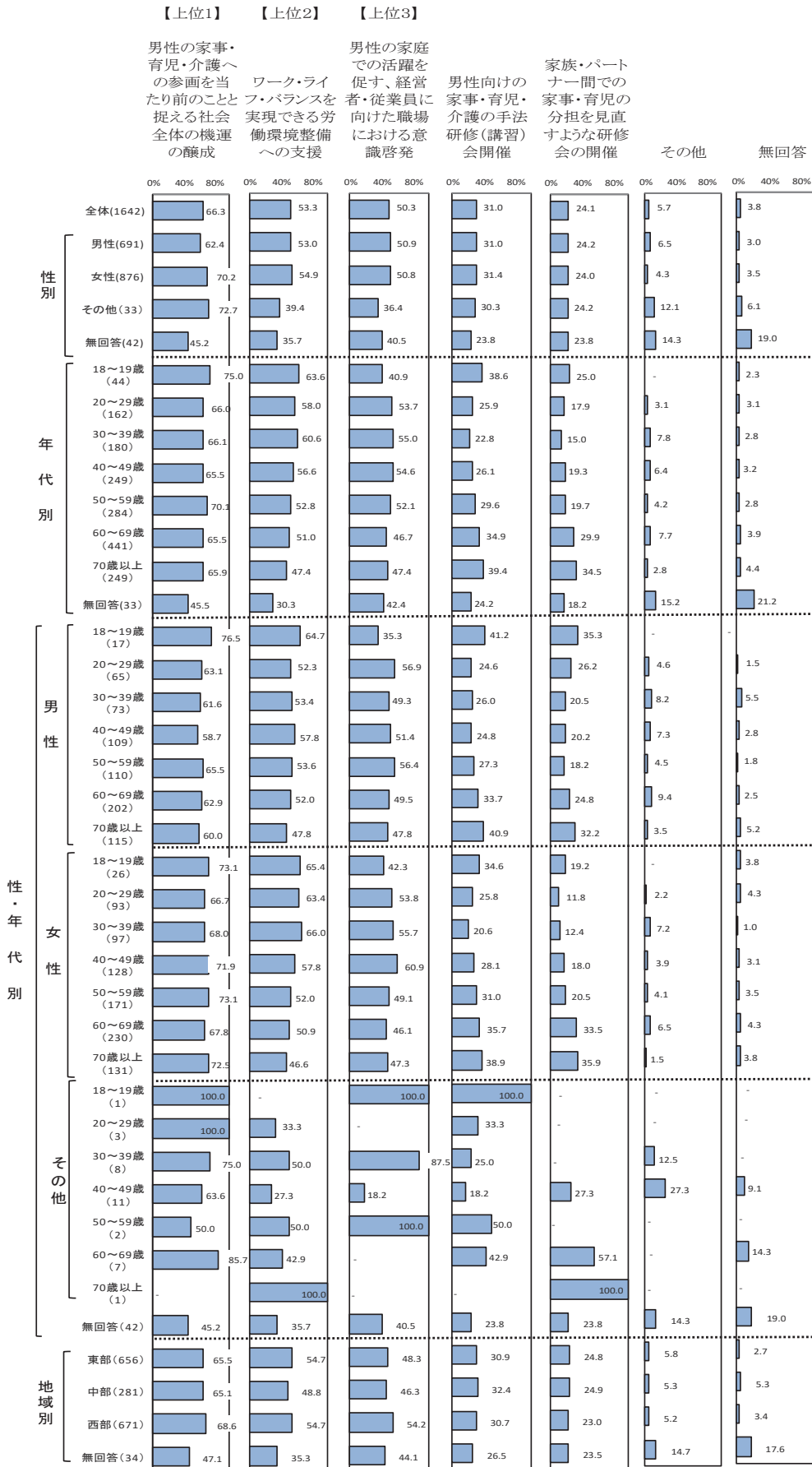


図 30 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策



問 10 男女ともにワーク・ライフ・バランスの実践を促す労働環境をつくるために、行政が行うべき施策(〇はいくつでも)

～「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」、「部下の仕事と家庭の両立を応援する「イクボス・ファミボス」の理念普及、機運醸成のための広報」、「企業(雇用主)対象のイクボス・ファミボス研修会等の開催」が上位～

男女ともにワーク・ライフ・バランスの実践を促す労働環境をつくるために、行政が行うべき施策は、「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」が67.5%と最も割合が高く、次いで「部下の仕事と家庭の両立を応援する「イクボス・ファミボス」の理念普及、機運醸成のための広報」が41.6%、「企業(雇用主)対象のイクボス・ファミボス研修会等の開催」が34.4%となっている。

平成 30 年度-令和2年度を比較してみると、「部下の仕事と家庭の両立を応援する「イクボス・ファミボス」の理念普及、機運醸成のための広報」の割合が年度毎に増加している。

年代別でみると、「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」は30～40歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「部下の仕事と家庭の両立を応援する「イクボス・ファミボス」の理念普及、機運醸成のための広報」は女性の30歳代の割合が高くなっている。

図31 男女ともにワーク・ライフ・バランスの実践を促す労働環境をつくるために、行政が行うべき施策(n=1,642)

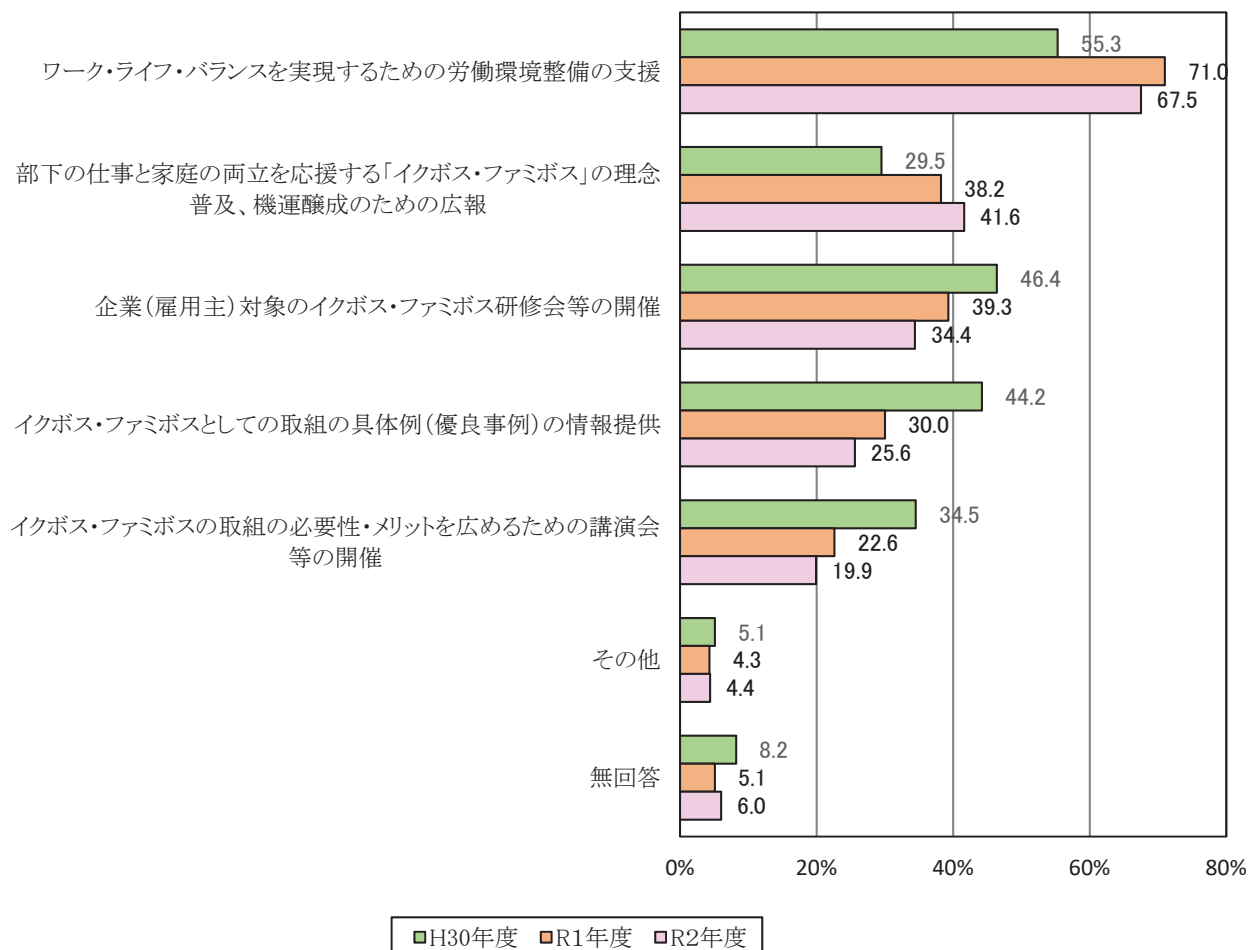
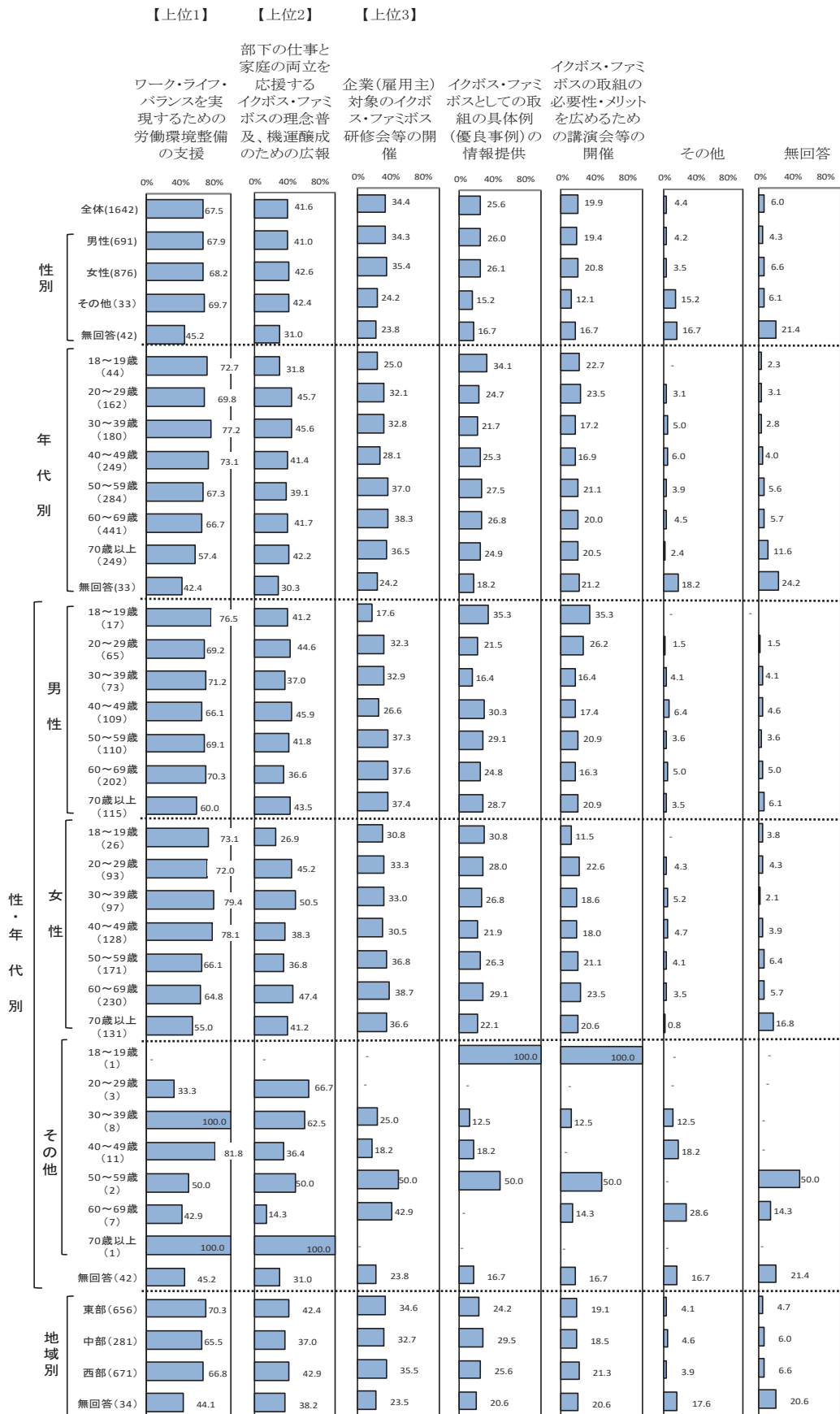


図 32 男女ともにワーク・ライフ・バランスの実践を促す労働環境整備をつくるために、行政が行うべき施策



問 11 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき施策は何だと思いますか。
 (〇は3つまで)

～「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」、「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」、「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が上位～

介護と仕事を両立するために、行政が行うべき施策は、「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が47.0%と最も割合が高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」が46.5%、「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」が43.2%となっている。

平成30年度-令和2年度を比較してみると、「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」の割合が令和元年度と比較し、1.7ポイント増加している。

性・年代別でみると、「男性の介護休暇(介護休業)取得に関して企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」の割合は男性の40歳代、60歳以上、女性の30歳代で高く、「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」の割合は女性の20～30歳代で高くなっている。

図33 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき施策(n=1,642)

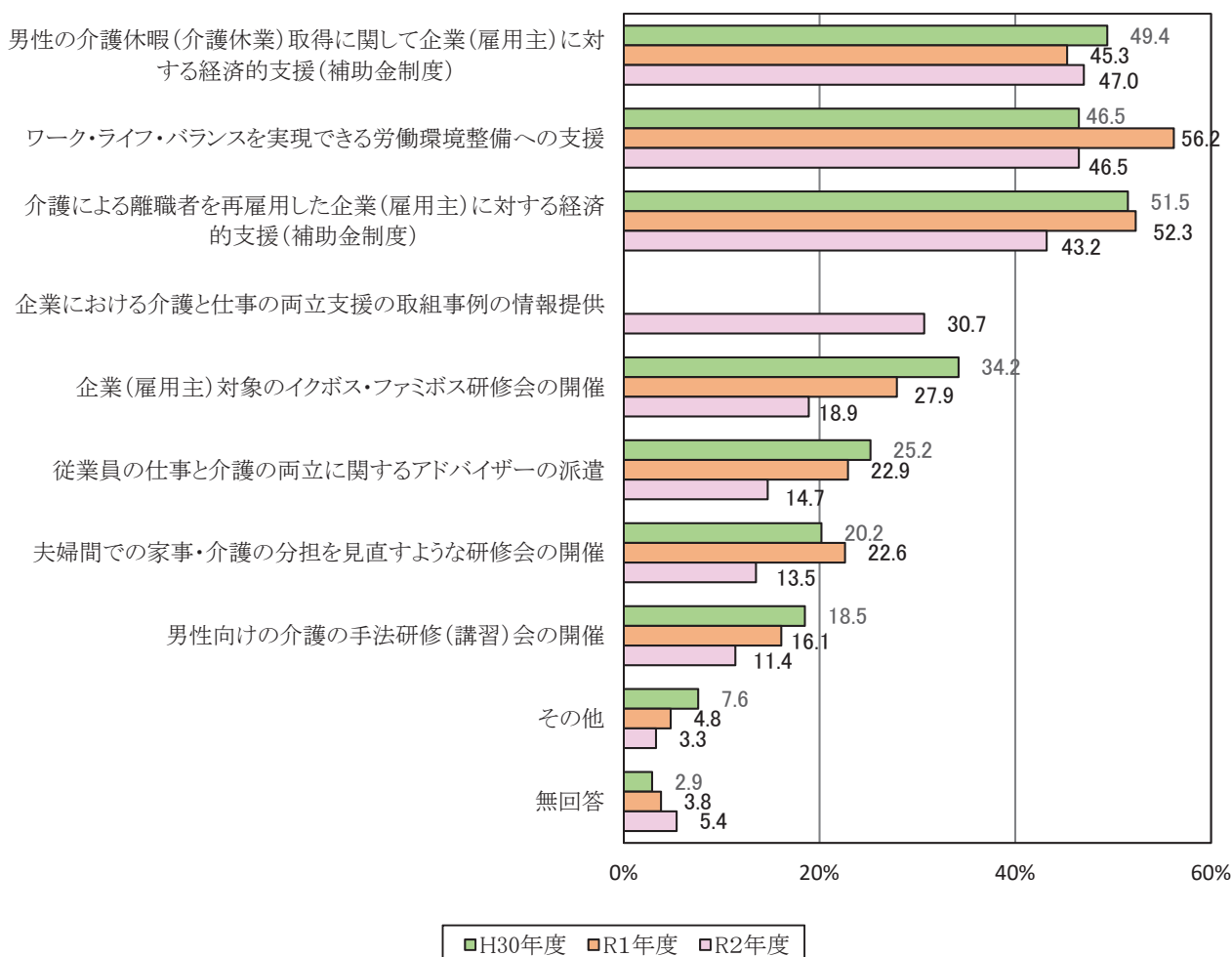
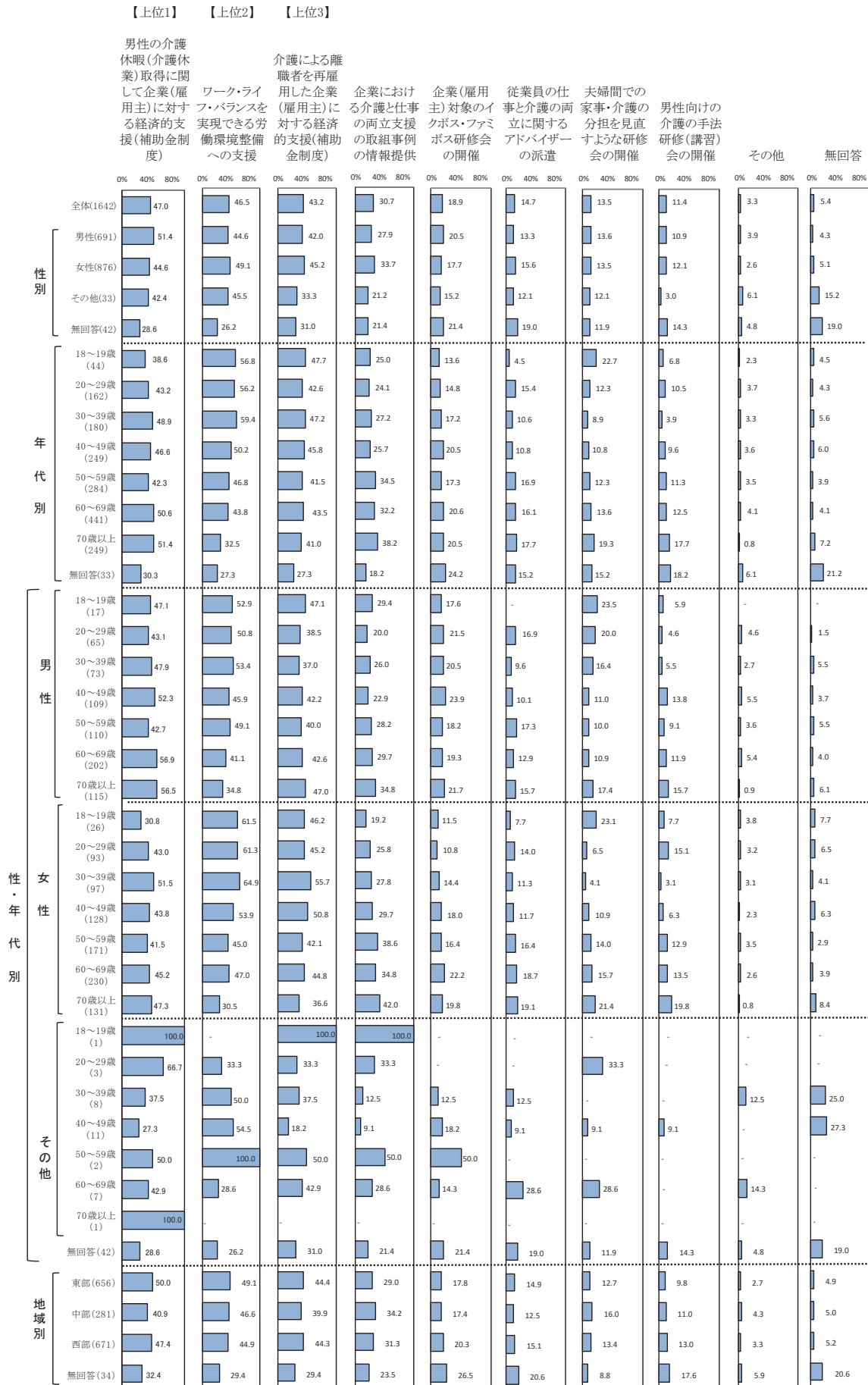


図 34 介護と仕事を両立するために、行政が行うべき施策



問12 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

～就労における男女の機会均等を進める企業の取組支援や介護、保育・子育て支援の取組が上位～

男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは、「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」が40.5%と最も割合が高く、次いで「介護の施設・サービスや介護支援の充実」が39.7%、「保育の施設・サービスや子育て支援の充実」が36.1%となっている。

男女別で見ると、「介護の施設・サービスや介護支援の充実」「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」は男性より女性の割合が高くなっている。

性・年代別で見ると、「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」の割合は男性の20歳代と50～60歳代、女性の50～60歳代で高く、「保育の施設・サービスや子育て支援の充実」の割合は男性の30歳代、女性の20～30歳代で高くなっている。また、「介護の施設・サービスや介護支援の充実」の割合は女性の50歳代以上で高くなっている。

図35 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきこと(n=1,642)

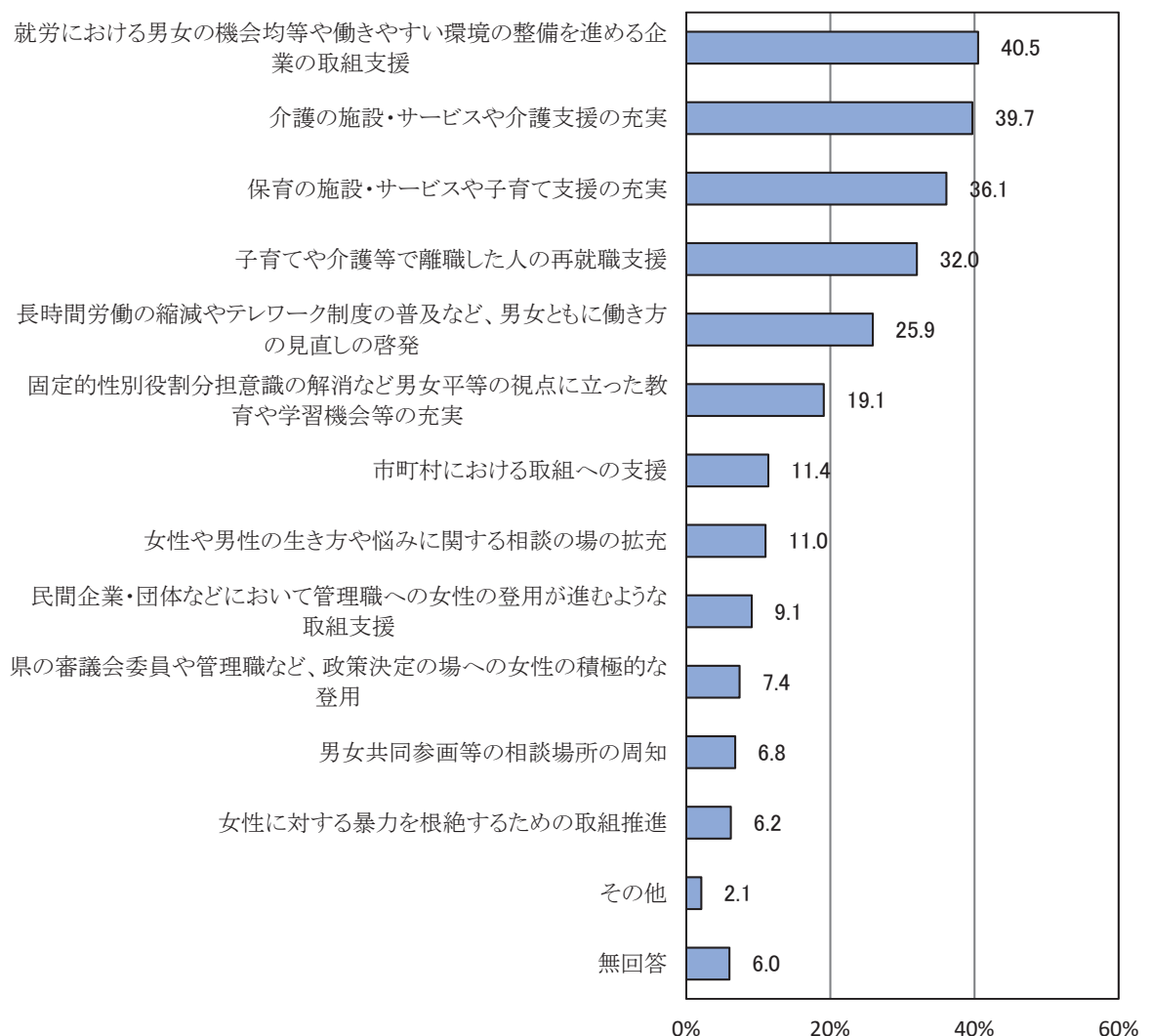


図 36 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきこと

